令和元年度　分掌チャレンジ（年度末チェック）				
令和元年度				
学校経営計画				年度末チェック
勉強がわかる喜びを伝える	「分かること」の楽しさを体験できる授業づくり	生徒が「分かった」と実感できる授業づくりに取り組み、学力の定着及び出席者の増加を図る。	生徒の学力に応じた教材を作成し、わかりやすい授業を行う。	ICT機器を用いたわかりやすい授業をするだけでなく、生徒の基礎学力に応じたテキスト・ワークを作成するなど、各教科が工夫を行った。また、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業実践について、社会科で公開授業を行い、教員間で共有できた。
			ICTや視聴覚教材を用いた授業を数、質ともに充実させる。	今年度だけで、1461回のICT機器を利用した授業を実施した。ICT機器の活用が活発になる一方で、不調となる機器が増えていきたが、新しい機器を購入するなど、更新対応も進めている。
			授業見学、研究授業等により、各教員が指導法の工夫・改善に取り組む。	6月と11月に授業見学週間をそれぞれ2週間にかけて実施した。教科の枠を超えて教員間で相互の授業を見学することで、個々の授業力向上ための良いきっかけとなった。 また、他校での公開授業への参加を教員に促し、教科でフィードバックを行ってもらった。
			授業において、図書室の利用を促進する。	図書室を利用するレポート課題を設定したり、図書室で授業を実施するなど、各教科で工夫した。また、放課後を利用して図書室でイベントを企画し、今まで足を運ばなかった生徒を来室させた。
		全教員で授業規律について指導する意識を共有し、生徒が落ち着いて学習できる環境づくりに努める。昨年度に引き続き、授業中の携帯電話の指導を学校で統一して行う。		「生徒指導だより」の発刊や、「気持ち引き締め月間」の実施をしたことで、懲戒・特別指導の件数が昨年度よりも20％程減少している。年度途中で、授業中に隠れて携帯電話を使用する生徒が増えているように感じたが、先生方の協力もあり、連携の取れた指導をとることができた。しかし、ネットやスマートフォン（携帯電話）に依存している生徒が増えており、今後は家庭も交えた生徒への支援をしていかなければならない。
人に認められ人と理解しあえる喜び伝える	基本的な倫理観や規範意識を育てる	教科の学習およびHR・総合的な学習の時間等も含めた教育活動全体を通して指導する。		・今年度は成人した生徒が校外で喫煙することが増え、成人生徒に対する喫煙マナー指導を行ってきた。年度当初はポイ捨てをする生徒がほとんどで、休憩時間後に教員が清掃していたが、何度も指導する内に携帯灰皿を持つ生徒が増え、通行人の迷惑にならないよう配慮する様子が見られた。しかし、学校生活を過ごしている時間帯なので、今後は「学校の時間中に喫煙をすること」に対しての指導もしていく必要がある。 ・人権道徳教育推進委員会と協力し、人権道徳教育推進委員会が中心となり、HRや総合学習の時間を利用した学習を生徒にさせることができた。 ・学校教育自己診断（生徒）における「命の大切さ、社会のルール、人権の大切さについて考える機会がある」の肯定率は75％と減少してはいるが、保護者の結果では82％と前年度よりも7％増加している。このことから、生徒が学校で学んだことを家庭にしっかりと持ち帰っていることがうかがえる。来年度以降、より生徒たちに人権・道徳学習が定着するよう、人権道徳教育推進委員会と協力していく。
	人と関わる体験を通して、コミュニケーション能力の育成を図る。	挨拶ができる生徒を育てる。		登下校の際に継続して挨拶の声掛けをおこなってきた。挨拶をすることで生徒たちのその日の様子が伺え、様子がおかしな生徒に対してはすぐに担任と連携し、対応することができた。今後も教員からの挨拶を継続し、生徒たちにも挨拶をすることが習慣になればと思う。学校教育自己診断（生徒）の結果では、「自分はあいさつをしている」という項目が前年度に比べ約16％減少しているが、保護者の結果では逆に14％増加している。このことから、来年度以降は、登下校の際だけでなく授業中の挨拶も生徒自身がしっかりできるようになればと思う。
		生徒会行事等を通して、遠足、修学旅行等に安心して参加できる生徒を育てる。		・各行事では、ボランティアスタッフに関わらず、多くの生徒が行事の準備・片付けを手伝ってくれた。学校教育自己診断（生徒）の「体育祭、文化祭などの学校行事は楽しい」の肯定率も74％と7割を超え、行事の参加率も体育祭・文化祭共に78％を超えた。年々生徒主体で、生徒自身が楽しめる学校行事になってきているので、今後も生徒会役員を中心に学校行事の発展をめざす。また、行事を通じて教員が色々な生徒とコミュニケーションを取れるようになり、それが指導にいきているように思う。
		各種行事において、保護者や地域住民および地域の中学校教員と積極的に連携・交流を図る。		地域に開かれた学校づくりをめざし、今年度も町内会・近隣中学校・保護者に行事ごとに広報活動をし続けた。その効果もあり、行事には、本校に関心のある近隣中学校生徒が参加してくれた。行事のアンケートにおいても非常に満足度が高く、明月祭においては例年同様PTA、地域の方々から沢山のバザー物品を提供していただいた。生徒数が減少する中、保護者の行事参加者数は多く、子どもに関心を持たない保護者が減少していることがうかがえる。来年度以降も、生徒・保護者・地域のニーズに応えながら、生徒1人一人の個性が輝く行事づくりをめざす。
		ボランティア活動や部活動等を通し、学校に対する誇りと自己肯定感を育てる。		ボランティア清掃では、年々生徒の自主参加意識が高まっており、毎回沢山の生徒が参加するようになっている。また、今年度は選択科目の関係で考査のない日にも関わらず登校する生徒や、部活動単位で生徒同士が声を掛け合って参加する動きも出ており、生徒会活動に貢献する姿勢が生徒に見られる。また、自分の進路実現に向けてボランティア経験を積むために参加する生徒も見られた。部活動においてはバドミントン部・全国大会に出場。その他、実定総体で男子バスケットボール部が準優勝するなど、様々な大会で各部が優秀な成績を収めており、部活動が盛んになってきている。今後も生徒が活躍し、成功体験を積むことができるよう学校として力を注いでいきたい。今年度は1年生の部活動加入率があまり高くなく、学校全体の部活動加入率も30％程度となった。来年度以降、生徒たちの興味の幅を広げ、1人でも多くの生徒が活躍できる場を整えていきたい。
	生徒指導に際して、各教員が生徒との人間関係を最大限大切にしながら、家庭・中学校・地域との連携を密にして取り組む。			・学校教育自己診断の生徒向けアンケートにおいて、「先生の指導について理解できる」の肯定的回答率は75％とほぼ昨年度と同様であったが、保護者の回答率は86％と昨年度よりも7％も増加し、「学校は、家庭への連絡や意思疎通を行っている」の肯定的回答率も昨年度に比べ8％増の85％となっている。日ごろから学年、担任の先生方が家庭と密に連絡を取ってくださっていることが結果として現れた。この結果を継続し、尚且つ生徒達にも学校の指導を理解させることができるよう、学校として来年度も生徒・保護者共に連携を密にとっていく。 今年度も発行した「生徒指導だより」の効果もあり、落とし物をした生徒が第一職員室を訪問する回数が増えた。そのことで、落とし物の返却数も増加しているように感じる。また、今年度は「気持ち引き締め月間」を実施し、定期的に生徒たちへの問題行動に対する注意喚起をおこなった。このことが要因となっているかははっきりとしないが、昨年度よりも懲戒・特別指導件数は減少している。（令和2年度1月30日現在：37件、昨年度同時期：46件）　来年度も定期的に生徒たちへの注意喚起を促し、生徒自身が自主規制できるよう働きかけたい。
	フォローアップコーディネーターを中心に困難を抱える生徒への支援体制を整える。			(A)本校のあるべき姿の明示 　様々な課題を持ち、困難を抱える生徒を4年間ないし3年間の間に「自分で未来を創造できる」 人間を育てるということを教職員全体で共有し、それに沿った各学年の方針、特色が出せるようにする。 (B）支援を必要とする生徒への取組み ①要支援生徒について個別の支援計画・指導計画は作成済。 ②中学校や関係機関とのケース会議を行い、情報収集と支援方法の策定に役立てた。 ③SSW発案のスクリーニングシートを第1学年の協力で作成し、活用した。 ④障がいのある生徒1名が職業訓練校へ進路決定し、1名は3月の選考に向けて 　準備している。 ⑤学習支援を4名配置し、調整、役割の説明等をおこない活用している。 ⑥次年度4月より「総合的な探究の時間」てコグトレの活用をスタートさせる。 (C)中退防止や長期欠席を予防するための家庭との連携 教育相談委員会で出てきた情報をもとに必要に応じてケース会議につなげた。 (D)教職員研修はSSW,SCを講師を依頼し2回行った。 (E)1月末現在退学率は5.3%である。
夢や志を抱く喜びを伝える	進路指導の充実を図る。	進路に関する十分な情報を生徒に提供するとともに、保護者にもその情報が届くようにする。		・奨学金の説明会への参加者は昨年度より大きく増加はしていないが、保護者の「奨学金制度についてきちんと説明している」の肯定的意見が増加した(昨年度88%→今年度92%)。今後も保護者説明会やHRで情報提供を継続したい。 ・在学中アルバイトの求人案内は現在16件校内に掲示している。在学中にアルバイト等の就労体験を多くの生徒ができるよう、就労先の開拓が課題である。 ・6月15日に保護者向け進路説明会を行い、16名の事前申込があり、12名保護者が参加した。より多くの保護者の方にお越しいただくよう、早めに案内をし、内容を充実させることが今後の課題である。
		進路ガイダンス機能の充実を図るとともに、個々の生徒のニーズに合った進路指導をする。		・進路ガイダンスや進路HRの中で、外部講師（卒業生、ハローワーク、FP、大学・短大・専門学校講師等）を多く活用し、生徒に様々な人の話を聞く機会を与えることができた。今後は個々の生徒にとって必要な情報を多く提供していく方法を考える。 ・卒業学年の進路決定率は61%（1月末時点）。これから受験や就職選考を控えている生徒も多くいるが、3月末まで粘り強く指導したい。
		就業体験をする生徒を増やす。		1月現在の本校在籍生徒の就業率は64%であり、5月当初(約40%)と比較すると大幅に伸びた。1年生がアルバイトを始めたことが大きな要因として考えられる。また、アルバイトの求人も学校近隣の16社からいただいており、就業に繋げられる良い機会となった。
組織の活性化と人材育成	校内組織の活性化	首席を中心に、経験年数の少ない教員の育成に取り組む。		教員がお互いに相談しやすい雰囲気づくりを大切にしているので継続していきたい。
	職務効率化の取組み	時間外勤務を軽減させる。		働き方改革の考え方は浸透してきていて、時間外の勤務は減少傾向に感じる。
		自身の健康について管理する。		年休や振休を積極的に取れ、心身ともに健康的に働ける環境づくりを進めていく。